

【 病 院 事 業 会 計 】

第1 予算執行状況

1 収益的収入及び支出

(1) 収益的収入

(単位 円、%)

区分 \ 項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B)-(A)	執行率 (B)/(A)
医業収益	11,806,949,000	11,106,120,663	△ 700,828,337	94.1
医業外収益	1,022,361,000	1,010,310,577	△ 12,050,423	98.8
特別利益	407,001,000	402,439,851	△ 4,561,149	98.9
合計	13,236,311,000	12,518,871,091	△ 717,439,909	94.6

収益的収入の予算執行率は、94.6%です。

医業収益の主なものは、入院収益67億1,960万円、外来収益37億8,884万円です。

医業外収益の主なものは、資本費繰入収益3億4,743万円、他会計補助金2億9,776万円、他会計負担金1億6,751万円です。

特別利益の主なものは、他会計補助金4億円です。

(2) 収益的支出

(単位 円、%)

区分 \ 項目	予算額 (A)	うち予備費 支出額	決算額 (B)	不用額 (A)-(B)	執行率 (B)/(A)
医業費用	12,694,735,000	0	12,416,814,197	277,920,803	97.8
医業外費用	149,996,000	0	144,418,053	5,577,947	96.3
特別損失	10,001,000	0	7,637,700	2,363,300	76.4
予備費	10,000,000	0	0	10,000,000	0.0
合計	12,864,732,000	0	12,568,869,950	295,862,050	97.7

収益的支出の予算執行率は、97.7%です。

医業費用の主なものは、給与費66億1,463万円、材料費26億1,659万円、経費20億444万円です。

医業外費用の主なものは、雑支出3億8,135万円、支払利息及び企業債取扱諸費7,505万円です。

特別損失は、過年度損益修正損754万円です。

2 資本的収入及び支出

(1) 資本的収入

(単位 円、%)

区分 \ 項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B)-(A)	執行率 (B)/(A)
企業債	802,500,000	474,300,000	△328,200,000	59.1
負担金	133,049,000	54,280,000	△78,769,000	40.8
寄附金	1,000	0	△1,000	0.0
投資的返還金	0	78,769,000	78,769,000	—
合計	935,550,000	607,349,000	△328,201,000	64.9

資本的収入の予算執行率は、64.9%です。

収入の主なものは、企業債が4億7,430万円です。

(2) 資本的支出

(単位 円、%)

区分 \ 項目	予算額 (A)	決算額 (B)	繰越額 (C)	不用額 (A)-(B)-(C)	執行率 (B)/(A)
建設改良費	802,500,000	547,006,802	245,231,000	10,262,198	68.2
償還金	1,034,148,000	1,034,147,317	0	683	100.0
合計	1,836,648,000	1,581,154,119	245,231,000	10,262,881	86.1

資本的支出の予算執行率は、86.1%です。

支出の主なものは、償還金が10億3,414万円です。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額9億7,380万円は、過年度分損益勘定留保資金等3,107万円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額132万円、当年度分損益勘定留保資金7億2,037万円を補てんし、なお不足する額2億2,103万円は一時借入金で措置しています。

3 一般会計からの繰入金

(単位 円)

予算項目	説明	繰入額		
		30	1	増減
収益的収入	救急医療	485,927,084	395,160,000	△90,767,084
	医療福祉相談等に係る経費	22,469,000	22,469,000	0
	研究研修費	19,676,411	19,114,911	△561,500
	地方公務員共済組合長期 給付追加費用	61,520,736	53,264,088	△8,256,648
	基礎年金拠出金公的負担金	158,978,316	168,999,601	10,021,285
	児童手当・こども手当	27,780,000	29,540,000	1,760,000
	院内保育所に係る経費	6,601,000	11,241,000	4,640,000
	企業債償還利息	49,087,386	45,123,279	△3,964,107
	リハビリ	76,004,439	27,660,000	△48,344,439
	小児医療	8,088,701	20,912,721	12,824,020
	高度医療経費	54,590,204	73,819,000	19,228,796
	改革プランに要する経費	166,400	99,400	△67,000
	医師確保対策に関する経費	15,505,000	15,505,000	0
	企業債償還元金	270,032,133	347,438,000	77,405,867
	産婦人科連携負担金	9,675,264	6,891,000	△2,784,264
	一般会計補助金	0	400,000,000	400,000,000
小計	1,266,102,074	1,637,237,000	371,134,926	
資本的収入	企業債償還元金	53,365,000	54,280,000	915,000
	小計	53,365,000	54,280,000	915,000
合計		1,319,467,074	1,691,517,000	372,049,926

病院事業会計に対する一般会計からの繰入金の総額は16億9,151万円で、前年度より3億7,204万円増加しています。

これは主に、救急医療に係る繰入金が9,076万円、リハビリに係る繰入金が4,834万円減少したものの、一般会計補助金が4億円、収益的収入に係る企業債償還元金の繰入金が7,740万円、高度医療に係る繰入金が1,922万円、小児医療に係る繰入金が1,282万円増加したことによるものです。繰入金に係る比率等は、次表のとおりです。

(単位 %、円)

分析項目	算式	30	1	全国平均 30
他会計繰入金対 経常収益比率	$\frac{\text{他会計繰入金(収益的収入)}}{\text{経常収益}} \times 100$	9.0	10.7	9.7
他会計繰入金対 医業収益比率	$\frac{\text{他会計繰入金(収益的収入)}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.9	11.6	10.9
他会計繰入金対 資本的収入比率	$\frac{\text{他会計繰入金(資本的収入)}}{\text{資本的収入}} \times 100$	9.2	8.9	35.9
一床当たり繰入金	$\frac{\text{他会計繰入金(合計)}}{\text{年度末病床数}}$	3,026,301	3,879,626	—

第2 経営成績

1 業務実績

区分		年度		前年度比較 (B) - (A)	30 全国平均
		30 (A)	1 (B)		
年度末病床数 (床)		436	436	0	240
年延患者数 (人)	入院	117,945	124,481	6,536	65,109
	外来	218,065	222,208	4,143	112,876
	計	336,010	346,689	10,679	177,985
1日平均患者数 (人)	入院	323	340	17	181
	外来	894	914	20	449
	計	1,217	1,254	37	630
病床利用率 (%)		74.1	78.0	3.9	75.8
外来入院患者比率 (%)		184.9	178.5	△ 6.4	173.4
百床 当 た り 職 員 数 (人)	医 師	(76) 24.3	(78) 26.4	(2) 2.1	16.0
	看 護 部 門	(405) 116.5	(408) 100.7	(3) △ 15.8	82.4
	薬 剤 部 門	(27) 7.8	(27) 7.8	(0) 0.0	4.2
	事 務 部 門	(22) 8.3	(23) 9.2	(1) 0.9	13.0
	給 食 部 門	(6) 1.6	(6) 1.6	(0) 0.0	2.2
	放 射 線 部 門	(20) 4.8	(22) 5.3	(2) 0.5	4.0
	臨 床 検 査 部 門	(27) 7.6	(28) 7.8	(1) 0.2	5.2
	そ の 他 部 門	(34) 8.5	(37) 9.4	(3) 0.9	13.0
	計	(617) 179.4	(629) 168.2	(12) △ 11.2	140.0

(注) 1 本市各区分数値の算出方法等

- (1) 1日平均患者数は、入院の診療日数366日、外来の診療日数243日で計算しています。(30年度は入院365日、外来244日)
 - (2) 病床利用率は、年延入院患者数/年延病床数×100
 - (3) 外来入院患者比率は、年延外来患者数/年延入院患者数×100
 - (4) ()内数字は、年度末職員数で非常勤職員等は含んでいません。
 - (5) 百床当たり職員数は県市町振興課へ報告した「地方公営企業決算の状況」より引用していますので、非常勤職員等を常勤職員に換算した人数が含まれています。
- 2 全国平均は地方公営企業年鑑に記載された数値を引用していますので、上記本市の算出方法により単純に計算すると結果が一致しないものがあります。
なお、病床利用率は、一般病床の率です。

年延患者数は346,689人で、前年度の336,010人より10,679人増加しています。これは、入院患者が6,536人、外来患者が4,143人増加したことによるものです。

1日平均の患者数は、入院で340人、外来で914人であり、1日平均の入院外来患者合計は1,254人です。

当年度病床利用率は78.0%で、前年度より3.9ポイント増加しています。外来入院患者比率は178.5%で、前年度より6.4ポイント減少しています。病床百床当たりの職員数は168.2人で、前年度より11.2人減少しています。

当年度の患者数を各科別にみると次表のとおりです。

(単位 人)

科名	入院		外来		対前年度増減	
	30	1	30	1	入院	外来
内科	209	486	4,540	4,529	277	△ 11
呼吸器内科	3,821	6,074	4,701	6,405	2,253	1,704
消化器内科	13,945	14,573	21,534	22,785	628	1,251
循環器内科	5,507	5,804	10,520	11,341	297	821
腎臓内科	2,841	3,287	12,958	12,925	446	△ 33
血液内科	10,418	9,711	6,526	7,169	△ 707	643
心療内科	0	0	678	637	0	△ 41
緩和ケア内科	5,550	5,540	346	366	△ 10	20
腫瘍内科	4,112	7,666	3,254	6,104	3,554	2,850
糖尿病内科	0	1,119	1,240	2,352	1,119	1,112
外科	11,770	9,311	12,763	10,896	△ 2,459	△ 1,867
呼吸器外科	1,339	385	1,740	1,305	△ 954	△ 435
心臓血管外科	0	0	18	15	0	△ 3
脳神経外科	5,267	5,597	3,223	3,303	330	80
整形外科	20,650	23,486	19,329	19,145	2,836	△ 184
形成外科	3,855	3,552	7,633	7,503	△ 303	△ 130
リウマチ科	3,420	2,878	9,271	9,367	△ 542	96
小児科	3,297	1,808	8,930	7,916	△ 1,489	△ 1,014
皮膚科	3,832	4,010	20,609	20,832	178	223
泌尿器科	6,579	5,858	19,419	18,135	△ 721	△ 1,284
産婦人科	0	0	1,594	1,472	0	△ 122
眼科	2,550	2,523	12,632	11,898	△ 27	△ 734
耳鼻いんこう科	3,003	3,647	13,357	12,823	644	△ 534
リハビリテーション科	0	0	666	828	0	162
放射線診断科	19	0	1,996	1,966	△ 19	△ 30
放射線治療科	-	-	4,622	5,836	0	1,214
救急科	4,843	5,721	1,584	1,651	878	67
歯科口腔外科	1,118	1,445	12,297	12,621	327	324
麻酔科	0	0	85	83	0	△ 2
計	117,945	124,481	218,065	222,208	6,536	4,143

2 損益計算書

(単位 円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		差引損益 (A)-(B)	総収支 比 率 (A)/(B)
	金 額 (A)	前年度比	金 額 (B)	前年度比		
27	10,961,168,849	95.0	11,087,241,189	102.5	△ 126,072,340	98.9
28	11,432,099,617	104.3	11,688,230,230	105.4	△ 256,130,613	97.8
29	11,491,145,702	100.5	11,676,837,035	99.9	△ 185,691,333	98.4
30	11,010,421,834	95.8	11,600,004,038	99.3	△ 589,582,204	94.9
1	12,489,619,740	113.4	12,540,944,755	108.1	△ 51,325,015	99.6

当年度の総収支比率は99.6%で、5,132万円の純損失を計上しました。

医業損益（医業収益から医業費用を差し引いたもの）は9億3,576万円の損失で、損失額は前年度より1億3,334万円減少しています。経常損益（医業収益と医業外収益を加えたものから、医業費用と医業外費用を差し引いたもの）は4億4,622万円の損失となっており、損失額は前年度より1億3,548万円減少しています。

なお、前年度繰越利益剰余金2億5,817万円に当年度純損失5,132万円を加えて、当年度未処分利益剰余金は2億684万円となります。

(1) 総 収 益

(単位 円、%)

区分	年度 30 (A)	1 (B)	対前年度増減額 (B)-(A)	前年度比 (B)/(A)
医 業 収 益	10,097,410,304	11,088,757,447	991,347,143	109.8
医 業 外 収 益	912,194,957	998,422,442	86,227,485	109.5
特 別 利 益	816,573	402,439,851	401,623,278	49,284.0
合 計	11,010,421,834	12,489,619,740	1,479,197,906	113.4

ア 医業収益

総収益に占める割合は88.8%です。

医業収益は110億8,875万円で、前年度より9億9,134万円増加しています。

これは、その他医業収益が7,943万円減少したものの、入院収益が5億6,379万円、外来収益が5億698万円増加したことによるものです。

その他医業収益の主なものは、一般会計負担金4億1,762万円、室料差額収益1億108万円です。

なお、入院外来収益を各科別にみると次の表のとおりです。

(単位 円)

科名	年度	入院	外来	合計
内科	30	10,866,024	43,124,236	53,990,260
	1	24,915,086	20,262,982	45,178,068
	増減	14,049,062	△ 22,861,254	△ 8,812,192
小児科	30	165,453,089	95,598,595	261,051,684
	1	84,168,882	86,423,490	170,592,372
	増減	△ 81,284,207	△ 9,175,105	△ 90,459,312
外科	30	692,859,085	312,887,562	1,005,746,647
	1	605,993,742	254,683,003	860,676,745
	増減	△ 86,865,343	△ 58,204,559	△ 145,069,902
整形外科	30	996,547,358	134,271,671	1,130,819,029
	1	1,227,218,790	139,270,519	1,366,489,309
	増減	230,671,432	4,998,848	235,670,280
リハビリテーション科	30	0	1,821,803	1,821,803
	1	0	2,497,816	2,497,816
	増減	0	676,013	676,013
皮膚科	30	148,011,752	139,980,448	287,992,200
	1	158,897,286	146,414,851	305,312,137
	増減	10,885,534	6,434,403	17,319,937
泌尿器科	30	380,914,681	282,152,198	663,066,879
	1	333,108,922	260,686,563	593,795,485
	増減	△ 47,805,759	△ 21,465,635	△ 69,271,394
産婦人科	30	0	12,591,755	12,591,755
	1	0	10,367,940	10,367,940
	増減	0	△ 2,223,815	△ 2,223,815
眼科	30	165,781,930	88,563,659	254,345,589
	1	169,693,351	91,997,587	261,690,938
	増減	3,911,421	3,433,928	7,345,349
耳鼻いんこう科	30	186,519,359	106,866,924	293,386,283
	1	234,642,897	105,289,390	339,932,287
	増減	48,123,538	△ 1,577,534	46,546,004
放射線診断科	30	1,254,326	52,047,741	53,302,067
	1	0	51,584,634	51,584,634
	増減	△ 1,254,326	△ 463,107	△ 1,717,433
麻酔科	30	112,477	47,200	159,677
	1	189,353	51,052	240,405
	増減	76,876	3,852	80,728
脳神経外科	30	305,589,628	36,700,546	342,290,174
	1	318,080,266	42,007,261	360,087,527
	増減	12,490,638	5,306,715	17,797,353
心臓血管外科	30	199,547	141,061	340,608
	1	197,022	147,403	344,425
	増減	△ 2,525	6,342	3,817
心療内科	30	0	1,703,184	1,703,184
	1	0	1,462,253	1,462,253
	増減	0	△ 240,931	△ 240,931
歯科口腔外科	30	60,928,899	80,065,076	140,993,975
	1	76,073,964	87,883,927	163,957,891
	増減	15,145,065	7,818,851	22,963,916
循環器内科	30	287,381,454	111,237,364	398,618,818
	1	332,621,349	121,141,261	453,762,610
	増減	45,239,895	9,903,897	55,143,792
消化器内科	30	680,630,407	341,815,047	1,022,445,454
	1	740,572,063	361,237,309	1,101,809,372
	増減	59,941,656	19,422,262	79,363,918
呼吸器内科	30	164,262,236	61,218,535	225,480,771
	31	289,481,417	146,480,521	435,961,938
	増減	125,219,181	85,261,986	210,481,167
呼吸器外科	30	149,928,875	36,794,588	186,723,463
	1	43,366,304	25,365,266	68,731,570
	増減	△ 106,562,571	△ 11,429,322	△ 117,991,893

科名	年度	入院	外来	合計
腎臓内科	30	115,127,364	305,071,255	420,198,619
	1	132,954,757	295,695,874	428,650,631
	増減	17,827,393	△ 9,375,381	8,452,012
緩和ケア内科	30	257,118,462	441,645	257,560,107
	1	269,142,960	492,243	269,635,203
	増減	12,024,498	50,598	12,075,096
形成外科	30	180,507,154	40,037,789	220,544,943
	1	175,327,664	40,933,416	216,261,080
	増減	△ 5,179,490	895,627	△ 4,283,863
総合内科	30	0	0	0
	1	0	22,013,717	22,013,717
	増減	0	22,013,717	22,013,717
血液内科	30	632,033,884	295,099,262	927,133,146
	1	633,692,162	315,650,575	949,342,737
	増減	1,658,278	20,551,313	22,209,591
リウマチ科	30	155,579,727	217,480,438	373,060,165
	1	140,404,472	221,907,345	362,311,817
	増減	△ 15,175,255	4,426,907	△ 10,748,348
腫瘍内科	30	199,494,825	348,330,849	547,825,674
	1	418,669,506	735,893,224	1,154,562,730
	増減	219,174,681	387,562,375	606,737,056
糖尿病内科	30	0	19,612,729	19,612,729
	1	42,487,597	31,980,890	74,468,487
	増減	42,487,597	12,368,161	54,855,758
放射線治療科	30	0	92,990,188	92,990,188
	1	0	136,770,188	136,770,188
	増減	0	43,780,000	43,780,000
救急科	30	218,704,922	23,162,227	241,867,149
	1	267,702,920	32,251,327	299,954,247
	増減	48,997,998	9,089,100	58,087,098
計	30	6,155,807,465	3,281,855,575	9,437,663,040
	1	6,719,602,732	3,788,843,827	10,508,446,559
	増減	563,795,267	506,988,252	1,070,783,519

イ 医業外収益

総収益に占める割合は8.0%です。

医業外収益は9億9,842万円で、前年度より8,622万円増加しています。

これは主に、他会計負担金が2,025万円減少したものの、資本費繰入収益が7,740万円、その他医業外収益が2,371万円増加したことによるものです。

ウ 特別利益

総収益に占める割合は3.2%です。

特別利益は4億243万円で、前年度より4億162万円増加しています。

これは主に、他会計補助金が4億円増加したことによるものです。

(2) 総費用

(単位 円、%)

区分 \ 年度	30 (A)	1 (B)	対前年度増減額 (B)-(A)	前年度比 (B)/(A)
医業費用	11,166,515,697	12,024,519,093	858,003,396	107.7
医業外費用	424,796,355	508,881,497	84,085,142	119.8
特別損失	8,691,986	7,544,165	△ 1,147,821	86.8
合計	11,600,004,038	12,540,944,755	940,940,717	108.1

ア 医業費用

総費用に占める割合は95.9%です。

医業費用は120億2,451万円で、前年度より8億5,800万円増加しています。

これは主に、資産減耗費が1,601万円、減価償却費が420万円減少したものの、材料費が4億4,465万円、給与費が3億6,488万円増加したことによるものです。

イ 医業外費用

総費用に占める割合は4.1%です。

医業外費用は5億888万円で、前年度より8,408万円増加しています。

これは、支払利息及び企業債取扱諸費が681万円減少したものの、雑支出が8,965万円、長期前払消費税償却額が123万円増加したことによるものです。

雑支出は3億8,135万円で、全額、非課税売上に対応する仮払消費税です。

ウ 特別損失

総費用に占める割合は0.1%です。

特別損失は754万円で、前年度より114万円減少しています。

これは、過年度損益修正損が305万円増加したものの、その他特別損失が420万円（皆減）減少したことによるものです。

総費用を性質別に分類し、前年度と比較すると次表のとおりです。

(単位 円、%)

区分	年度	30 (A)	1 (B)	対前年度増減額 (B)-(A)	前年度比 (B)/(A)
給 与 費		6,249,748,739	6,614,636,887	364,888,148	105.8
材 料 費		2,171,940,758	2,616,595,911	444,655,153	120.5
報 償 費		284,455,160	289,841,373	5,386,213	101.9
光 熱 水 費		201,907,519	199,229,941	△ 2,677,578	98.7
修 繕 費		76,030,814	61,420,788	△ 14,610,026	80.8
賃 借 料		147,415,692	161,292,827	13,877,135	109.4
委 託 料		1,089,218,419	1,154,170,044	64,951,625	106.0
減 価 償 却 費		743,990,123	739,788,191	△ 4,201,932	99.4
支払利息及び企業債取扱諸費		81,869,177	75,058,432	△ 6,810,745	91.7
雑 支 出		291,700,585	381,357,344	89,656,759	130.7
過年度損益修正損		8,691,986	7,544,165	△ 1,147,821	86.8
そ の 他		253,035,066	240,008,852	△ 13,026,214	94.9
合 計		11,600,004,038	12,540,944,755	940,940,717	108.1

性質別費用の主な増は、材料費が4億4,465万円、給与費が3億6,488万円です。

主な減は、修繕費が1,461万円、その他が1,302万円、支払利息及び企業債取扱諸費償却費が681万円です。

3 経営分析

(単位 円、人、%)

年度		30	1	前年度比較
区分		(A)	(B)	(B)-(A)
患者1人1日当たり医業収益		30,051	31,985	1,934
患者1人1日当たり医業費用		33,233	34,684	1,451
" (減価償却費等を除く)		30,931	32,511	1,580
患者1人1日当たり診療収入	入院	52,192	53,981	1,789
	外来	15,050	17,051	2,001
	全体	28,087	30,311	2,224
職員1人当たり医業収益		16,207,721	17,380,498	1,172,777
職員1人1日当たり患者数	入院	0.5	0.5	0.0
	外来	1.4	1.4	0.0
	計	1.9	1.9	0.0
医業費用に占める割合	給与費	56.0	55.0	△ 1.0
	材料費	19.5	21.8	2.3
医業収益に占める給与費の割合		61.9	59.7	△ 2.2

(注) 患者1人1日当たり医業収益又は費用 … 医業収益又は医業費用/入院外来年延患者数
 患者1人1日当たり診療収入 … 入院又は外来収入/入院又は外来年延患者数
 職員1人当たり医業収益 … 医業収益/損益勘定所属職員数 (30年度623人、元年度は638人)
 職員1人1日当たり患者数 … 入院又は外来年延患者数/損益勘定所属職員数/入院366日又は外来243日
 (30年度は入院365日又は外来244日)

なお、損益勘定所属職員数は県市町振興課に報告した「地方公営企業決算の状況」の数値です。

患者1人1日当たり医業収益は31,985円、医業費用は34,684円で、差引き2,699円の損失となっています。ちなみに、現金支出を伴わない減価償却費等を除いた医業費用は32,511円となり、差引き526円の損失となっています。

患者1人1日当たり診療収入は、入院で53,981円、外来で17,051円、全体で30,311円です。

経営分析指標の一つである医業収益に占める給与費の割合は59.7%です。

なお、薬品使用効率をみると次表のとおりです。

(単位 %)

分析項目	30	1	全国平均 30
$\frac{\text{投薬収入}}{\text{投薬薬品払出原価}} \times 100$	85.3	108.4	102.3
$\frac{\text{注射収入}}{\text{注射薬品払出原価}} \times 100$	88.3	117.4	90.2
計	87.8	116.3	93.2

第3 財政状態

1 貸借対照表

(1) 資産

(単位 円、%)

年度 区分	30 (A)	1 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	前年度末比 (B)/(A)
固定資産	13,978,705,337	13,638,013,830	△ 340,691,507	97.6
流動資産	1,960,741,289	2,148,980,700	188,239,411	109.6
合計	15,939,446,626	15,786,994,530	△ 152,452,096	99.0

資産は157億8,699万円で、前年度より1億5,245万円減少しています。

ア 固定資産

固定資産は136億3,801万円で、前年度より3億4,069万円減少しています。

これは主に、建設仮勘定が4,266万円増加したものの、建物が1億7,633万円、器械備品が1億2,197万円、長期未収金が7,876万円減少したことによるものです。

イ 流動資産

流動資産は21億4,898万円で、前年度より1億8,823万円増加しています。

これは、前払金が190万円減少したものの、未収金が1億4,473万円、現金預金が3,477万円、貯蔵品が1,063万円増加したことによるものです。

なお、当年度末未収金の17億7,753万円に対し、債権の貸倒れによる損失に備えるために貸倒引当金を183万円計上しています。

また、未収金の内訳は次表のとおりです。

(単位 円、%)

年度 区分	30 (A)	1 (B)	対前年度末 増減額 (B)-(A)	医業収益に 対する割合	
				30	1
診療報酬	1,472,377,704	1,619,119,879	146,742,175	14.6	14.6
患者自己負担金	61,536,368	57,133,864	△ 4,402,504	0.6	0.5
その他	2,098,128	9,597,627	7,499,499	0.0	0.1
医業未収金	1,536,012,200	1,685,851,370	149,839,170	15.2	15.2
医業外未収金	15,583,483	10,913,306	△ 4,670,177	—	—
その他未収金	78,769,000	78,769,000	0	—	—
合計	1,630,364,683	1,775,533,676	145,168,993	—	—

医業未収金のうち診療報酬は16億1,911万円で、これは主に、令和2年2月及び3月の請求分です。患者自己負担金は5,713万円、その他は959万円です。なお、令和2年6月末日の残額は、診療報酬が108万円、患者自己負担金が1,107万円、その他が6万円となっています。

医業外未収金は1,091万円、その他未収金は7,876万円で、令和2年6月末日現在の医業外未収金及びその他未収金は全額収納済みとなっています。

なお、過年度滞納繰越金のうち消滅時効が完成した19件、226万円について、不納欠損処分を行っています。

(2) 負債

(単位 円、%)

年度 区分	30 (A)	1 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	前年度末比 (B)/(A)
固定負債	8,232,701,430	7,643,397,007	△ 589,304,423	92.8
流動負債	3,958,439,826	4,417,419,054	458,979,228	111.6
繰延収益	252,614,777	227,532,891	△ 25,081,886	90.1
合計	12,443,756,033	12,288,348,952	△ 155,407,081	98.8

負債は122億8,834万円で、前年度より1億5,540万円減少しています。

これは主に、他会計借入金（流動負債）が3億円、一時借入金が1億円、未払金が9,316万円増加したものの、他会計借入金（固定負債）が3億円、企業債（固定負債）が2億8,995万円、預り金が2,672万円減少したことによるものです。

(3) 資本

(単位 円、%)

年度 区分	30 (A)	1 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	前年度末比 (B)/(A)
資本金	2,816,580,496	2,816,580,496	0	100.0
剰余金	679,110,097	682,065,082	2,954,985	100.4
合計	3,495,690,593	3,498,645,578	2,954,985	100.1

資本は34億9,864万円で、前年度より295万円増加しています。

ア 資本金

資本金は28億1,658万円で、前年度と同額となっています。

イ 剰余金

剰余金は6億8,206万円で、前年度より295万円増加しています。

これは、利益剰余金の当年度純損失が5,132万円発生したものの、資本剰余金が5,428万円増加したことによるものです。

2 キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書の状況は、次表のとおりです。

(単位：円)

	30	1	対前年度増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
材料の購入による支出	△ 2,228,106,304	△ 2,566,423,343	△ 338,317,039
人件費支出	△ 6,179,313,258	△ 6,627,582,593	△ 448,269,335
医業収入	9,468,899,603	10,549,133,716	1,080,234,113
負担金、補助金等収入	986,394,677	1,282,908,000	296,513,323
国庫負担金等による収入	16,621,191	12,966,008	△ 3,655,183
その他業務収入	83,374,301	40,099,238	△ 43,275,063
その他業務支出	△ 2,189,775,526	△ 2,305,032,167	△ 115,256,641
小計	△ 41,905,316	386,068,859	427,974,175
利息の受取額	2,791	3,285	494
利息の支払額	△ 81,869,177	△ 75,058,432	6,810,745
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 123,771,702	311,013,712	434,785,414
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 700,203,624	△ 549,031,884	151,171,740
一般会計からの繰入金による収入	323,397,133	401,718,000	78,320,867
寄付による収入	350,000	2,154,281	1,804,281
退職手当組合負担金調整額による収入	78,769,000	78,769,000	0
退職手当組合負担金調整額による支出	△ 73,473,409	0	73,473,409
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 371,160,900	△ 66,390,603	304,770,297
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	6,850,000,000	7,550,000,000	700,000,000
一時借入金の返済による支出	△ 6,050,000,000	△ 7,450,000,000	△ 1,400,000,000
建設改良費等の財源に充てるための 企業債による収入	449,200,000	474,300,000	25,100,000
建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 557,495,171	△ 784,147,317	△ 226,652,146
その他の他会計借入金による収入	550,000,000	250,000,000	△ 300,000,000
その他の他会計借入金の返済による支出	△ 700,000,000	△ 250,000,000	450,000,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	541,704,829	△ 209,847,317	△ 751,552,146
資金増加額	46,772,227	34,775,792	△ 11,996,435
資金期首残高	179,747,846	226,520,073	46,772,227
資金期末残高	226,520,073	261,295,865	34,775,792

資金期末残高は2億6,129万円で、前年度より3,477万円増加しています。

第4 意見及び指摘事項

1 経営状況について

当年度決算は、総収益が124億8,961万円、総費用が125億4,094万円で、差引き5,132万円（前年度5億8,958万円）の当年度純損失が生じています。その結果、当年度未処分利益剰余金は、前年度からの繰越利益剰余金2億5,817万円を加えて2億684万円となりました。

収益面では、医業収益について、前年度の収益と比較すると、一般会計からの負担金の減9,076万円を含めたその他医業収益が7,943万円減少したものの、入院収益が5億6,379万円、外来収益が5億698万円増加し、これらを合わせた医業収益の増加額は9億9,134万円となっています。他に、一般会計からの資本費繰入収益の増7,740万円を含めた医業外収益が8,622万円、一般会計からの基準外繰入れ4億円を含めた特別利益が4億162万円増加し、事業収益全体では差引き14億7,919万円の増加となっています。

一方費用面では、医業費用について、資産減耗費が1,601万円、減価償却費が420万円減少したものの、材料費が4億4,465万円、給与費が3億6,488万円増加し、これらを合わせた医業費用の増加額は8億5,800万円となっています。他に、医業外費用が8,408万円の増加、特別損失が114万円の減少で、事業費用全体では差引き9億4,094万円の増加となっています。

総収益については、3月の補正予算で一般会計からの基準外繰入れ4億円が含まれており、この基準外繰入金4億円がなかった場合で見ると、当年度純損失は4億5,132万円となりますが、前年度純損失額と比較すると1億3,825万円改善されています。

改善の要因としては、「消化器内科をはじめ不足する診療科医師を確保することで、医業収益を大幅に改善させたことによる」旨の説明を受けました。

しかし、昨年度に比べ若干の改善が見られたとはいえ、収支均衡にはほど遠い状況です。今後も引き続き医師の確保、費用の削減等、経営改善に努めてください。

また、平成29年度決算審査において、「病院費用の大部分を占める人件費について、他の公立病院や民間病院の状況を調査し、給料表や手当の在り方などの現状分析や見直しを進めながら、医師確保とそれ以外の方策にも積極的に取り組むなど、経営改善に努めてください。」と意見しています。今回、他の公立病院や民間病院の給料表や手当についての調査の実施状況について確認したところ、「給料表や手当についての調査は実施していないが、伊丹市立病院の看護師数の状況については比較調査を行った。」旨の説明を受けましたが、病院の経営改善を進める上で、他の病院の給与水準を知っておくことは必要で

す。看護師等の人数や人件費について、他の病院と比較、検討、分析を行うことは、経営改善を進める上で重要であると考えます。今後は他の公立病院等の給与状況の把握についても、問題意識を持ち主体的に調査に取り組んでください。

2 宝塚市立病院がんセンターに係る収支状況等について

宝塚市立病院がんセンターにおける放射線治療及び化学療法については、収支シミュレーション表が作成されており、令和元年度における目標値及び実績値を確認したところ、次表のとおりとなっていました。

放射線治療	目標	実績
件数（件）	250	267
常勤医師（人）	2	1
収入（千円/人）	953	680
収支（千円）	39,569	5,825

化学療法	目標	実績
件数（件）	4,676	3,001
収支（千円）	7,938	551

放射線治療における目標達成状況について、「令和元年6月時点の目標は、想定件数250件、同年10月より常勤医師2名体制による強度変調放射線治療（専用コンピュータを用いた腫瘍の形に適した照射を行う放射線治療）の開始（半年分の強度変調放射線治療の収入）により、953千円/人を想定していたが、結果としては、実施件数267件で目標を達成したものの、医師確保ができず常勤医師1名体制での収入（680千円/人）に留まる結果となった。それに伴い、収支についても39,569千円の黒字を想定していたが、5,825千円の黒字に留まった。」旨の説明を受けました。今後の放射線治療医の確保見込みについては、「放射線治療医は全国的に不足していることにより、もう1名採用することは難しい状況である。」旨の説明を受けました。

また、化学療法における目標達成状況については、「件数目標は、腫瘍内科医で、がん診療担当特命病院長の兵庫県がんセンターでの経験をもとに設定された件数だったが、到達できなかった。市外に流れているがん患者を呼び込む施策が不足していると考えている。」旨の説明を受けました。今後の患者確保の見込みについては、「がん患者に関連するすべての診療科をはじめ、兵庫県がん診療連携拠点病院としてがん診療の強みを発信していく。」旨の説明を受けました。

がんセンターの開設にあたっては、当初、病院事業の収支改善の柱となることが見込まれていただけに、目標通りの収支とならない場合は今後の病院経営に非常に大きな影響を与えます。特に放射線治療の収支は金額的にも病院経営に与える影響が大きいと考えられるため、

医師確保に向けて引き続き最大限の努力を重ねるとともに、収支シミュレーションの目標値及び予算書で計上されている医業収益等については適宜見直しを行い、治療件数を増加させることで目標収支をカバーできる体制づくりに努めてください。

3 診療科別損益計算書について

市立病院では、経営状況の分析を行うため、毎年度決算時に「診療科別損益計算書」を作成しています。令和元年度分については、「新型コロナウイルス感染症対策の影響などにより、業務が繁忙であったことから、未作成である。」旨の説明を受けましたが、診療科別損益計算書は、診療科毎に人件費や材料費、減価償却費等について、収支の状況や年度別の変化も確認できる、病院経営の分析において非常に重要な資料であると考えます。

年度間の比較や推移の確認が容易にできるよう、各年度の様式を統一して必ず毎年度作成し、経営分析や経営計画の進捗管理に役立てるよう努めてください。

4 職員駐車場拡張事業について

病院事業においては、寄附申出及び相続財産任意売却により取得した土地に係る保全管理及び利活用を図ることを目的に、53台分の職員駐車場の拡張工事を実施しています。当該事業に係る費用については、土地取得費及び工事費等を含め総額で約5,200万円となっていました。

駐車場整備の必要性について、「現在の職員駐車場の契約率はほぼ100%となっており、拡張されることにより、近隣民間駐車場に流れていたニーズや新規採用職員などの利用希望を取り込めると判断しており、積極的に利用者を募集することとしている。」旨の説明を受けました。

また、投資金額の回収年数については、「増加した53区画を全て貸し出した場合、投資金額約5,200万円は最短7年半で回収できることとなる。本件土地は、従前ため池や空き家であったことから単に所有するだけでは土地の管理費が発生するため、工事を行うことで管理に要する費用を省き、収益の増加を図る。」旨の説明を受けました。

駐車場拡張工事を行うのであれば、現在の駐車場利用希望者数をもとに投資金額の回収見込年数を計算し、病院経営に与える影響を考慮した上で実施すべきであると考えますが、上記の説明から判断するに、そのような検討がなされた上での実施ではなかったと思われます。令和元年度決算において、一般会計から4億円の財政支援がなければ欠損金が発生する状況で

あったことを鑑みれば、土地の管理費が発生することを加味したとしても、今年度を実施しなければならぬ緊急性があったのか疑問が残ります。

今後、病院事業においては駐車場整備に係る投資額を早期に回収できるよう努めるとともに、医業と直接関係しない投資については、病院事業の収支に与える影響を慎重に検討した上で実施するよう努めてください。

5 時間外勤務の状況について

時間外勤務の状況は、令和元年度は病院全体で77,195時間となり、前年度より1,046時間増加しています。職員一人あたりの時間数は111時間となり、前年度より2時間削減されているものの、改善されているとは言えない状況です。

平成30年度決算審査において、「経営統括部は経営改善を率先して実施すべき部署であると考えますので、更なる時間外勤務の削減に向けて積極的に取り組んでください。」と意見したところですが、令和元年度の時間外勤務が多い職員上位20人の状況を見ると、経営統括部の職員が8人を占め、年度途中で退職した職員1人以外は7人全員が前年度より時間増となっています。その中には、年間798時間もの時間外勤務を行っている職員、1か月で100時間以上となる職員、また月45時間を超えた回数が10回の職員も見られました。

こうした現状を放置すれば、使用者としての管理責任が問われます。管理職は時間外勤務の事前命令と事後確認を確実にし、職場全体で問題意識を持ち、時間外勤務の削減に徹底して取り組んでください。

6 減損会計について

固定資産の減損とは、固定資産の収益性が低下したことにより投資額の回収が見込めなくなった状態を指し、固定資産の減損処理とは、そのような状態になった場合に、一定の条件下で当該固定資産の回収可能性を反映させるように帳簿価額を減額する会計処理をいいます。

減損会計の具体的な流れは、次のステップに分かれています。

(1) 資産のグルーピング

(2) 減損の兆候の把握

資産又は資産グループに、減損が生じている可能性を示す兆候があるか

(業務活動から生ずる損益が連続してマイナス見込みであれば、減損の兆候あり。)

(3) 減損損失の認識

資産等が生み出す割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を大小比較

(割引前将来キャッシュ・フロー>帳簿価額であれば、減損損失の認識なし。)

※割引前将来キャッシュ・フローとは、資産又は資産グループが将来生み出すと予想されるキャッシュ・フローを時間価値を考慮せずに単純に合計したもの。

(4) 減損損失の測定

帳簿価額を回収可能価額まで減額するため、差額を測定する。

(5) 減損損失の会計処理

帳簿価額と回収可能価額の差額を特別損失として計上する。

病院事業における令和元年度の状況を確認したところ、上記(2)において、業務活動から生ずる損益が連続してマイナスとなり、地方公営企業会計制度の改正により平成26年度決算から減損会計が導入されて以来初めて、「減損の兆候あり」と判定されましたが、(3)において、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を上回っていたため「減損損失の認識なし」と判定されました。しかしながら、今後、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回る可能性も十分に残されており、その場合、(4)で差額を算出した上で、(5)において帳簿価額を減額し、特別損失を計上することとなります。

現在の病院事業の収支状況を鑑みるに、病院事業においては引き続き減損の兆候が発生すると考えられるため、適切な割引前将来キャッシュ・フローの算定に努めるとともに、減損損失が認識された場合には速やかに減損処理を行うよう努めてください。

7 退職給付債務について

退職給付会計においては、退職給付引当金を算出する際、退職給付債務を計算する必要があります。病院事業における退職給付債務は簡便法で算出されており、これは年度末に特別職を含む全企業職員(年度末退職者を除く)が自己都合により退職すると仮定した際の支給すべき退職手当の総額となっています。病院事業は兵庫県市町村職員退職手当組合(以下「退手組合」という。)に加入しているため、病院事業の退職給付債務は退手組合からデータを入手しています。

令和元年度決算において退職給付債務の内容を確認したところ、平成30年度末の退職給付債務のデータに一律0.4%の調整額が上乘せされていることが判明しました。この調整理由について、「退手組合より提供された平成30年度末時点の退職給付債務見込額を元に、平成30年度における退職給付債務増加額を算定したところ、退職給付債務増加額が退職手当

組合負担金支払額を下回ったため、資本的収支（4条予算）の前払退職手当組合負担金として処理しなければならない状況となった。しかしながら4条予算を計上しておらず、専決補正予算も不可能であったため、退職手当支給見込額を全員一律0.4%上乘せすることで退職給付債務を調整したが、他に妥当な処理を見い出せず、やむを得なかったと判断している。」旨の説明を受けました。

しかしながら、今回の事例については、資本的収支（4条予算）の前払退職手当組合負担金として処理しなければならなかったとする見解については疑問が残り、収益的収支（3条予算）の処理として考え、借方を退職給付引当金（取崩し）、貸方を退職給付費（戻入）とした反対仕訳を行うことが可能であったと考えます。このことについて、「3条予算で処理するという考え方については、従来採ってきた考え方と異なるため、企業会計原則の一般原則のうち「継続性の原則」に照らすと適切ではないと考える。」旨の説明を受けましたが、これは「継続性の問題」ではなく、単に内部の仕訳処理の変更に過ぎないと考えます。このため、この仕訳処理を変更しても損益計算書、貸借対照表に影響は生じません。

一方、退職給付債務を調整したことにより、平成30年度決算の損益が約800万円ほど悪化する結果となっています。これは病院事業の損益計算書及び貸借対照表をはじめとする決算書を恣意的に改変することで生じたものであり、重く受け止めるべきだと考えます。この調整額については令和元年度決算においては解消されていますが、令和元年度の損益計算書はこの調整額だけ費用が過小となっており、当期損益にも影響を与えています。病院事業において他に妥当な処理を見い出せなかったにせよ、このような処理は病院事業の決算に対する信頼性を損ねることにもつながります。今後はこのような処理を行うことのないよう、適切な会計処理に努めてください。

第5 むすび

当年度決算は、前年度 5 億 8,958 万円の純損失から 5 億 3,825 万円改善し、5,132 万円の純損失となりましたが、これは市から 4 億円の基準外繰入れがあったためであり、この財政支援がなかった場合、4 億 5,132 万円の純損失が発生し、当年度未処分利益剰余金についても、前年度からの繰越利益剰余金 2 億 5,817 万円に純損失 4 億 5,132 万円を加えた結果、1 億 9,315 万円の欠損金が発生する結果となっていました。

累積欠損金を抱えている公営企業においては、資金不足比率が経営健全化基準（20%）を超えた場合、経営健全化計画を策定し、議会の議決を経た上で県に報告する義務が生じるとともに、企業債の発行に際し一定の制限を受けることとなります。令和元年度の資金不足比率は 13.5%にとどまっていますが、一般会計からの基準外繰入れ 4 億円及び水道事業からの借入金 2 億 5,000 万円の借入期間延長の影響を除いた実質的な資金不足比率は 19.4%にまで達し、実質的には経営健全化団体目前であると言えます。

このような経営状況に対し、市から行われている財政支援として、令和元年度に行われた 4 億円の基準外繰入れの他にも、一般会計から長期貸付金として 14 億円（令和元年度末）、歳計現金から短期貸付金として約 12 億円（令和元年度各月末平均）の貸付けなどが行われています。このように病院事業の経営維持に多額の市税が投入されていることを鑑みるに、病院事業として現在の経営状況及び経営改善に向けた取組の達成状況等については広く市民に対し状況を公表するとともに、市民の理解を得る必要があると考えます。

また、コロナ禍による病院事業に対する影響について、令和元年度については明らかな減収とはなっていないものの、令和 2 年度当初に患者数が大幅に減少しており、4 月・5 月の減収分を補てんするため市から 2 億円が補助される予定となっています。今後、感染者数の増加によるさらなる減収が考えられますが、令和 2 年度決算の収支状況については、コロナ禍による影響と経営改善の取組の達成状況による影響とは切り離して考える必要があると考えます。

なお、病院事業の経営改革については、副市長をトップとする「市立病院経営改革検討会」において議論が重ねられており、令和 2 年 7 月末までが委託期間となっている病院経営分析業務委託の結果に基づき、経営形態も含めた今後の市立病院の方向性が決定されることとなります。市の財政状況が逼迫する中、病院事業に対し今後どこまで支援を行えるかは不透明であり、今後の方向性については早期の決定が望まれますが、市民

の期待に応えうる持続可能な病院経営の在り方について、慎重に検討を重ねてください。

【 病 院 事 業 会 計 】

(資 料)

比較損益計算書（病院事業会計）

科目	費用の部				対前年度増減 (B)-(A)	(B)/(A)
	30		1			
	金額 (B)	構成比	金額 (B)	構成比		
医業費用	11,166,515,697	96.3	12,024,519,093	95.9	858,003,396	107.7
給与費	6,249,748,739	53.9	6,614,636,887	52.7	364,888,148	105.8
材料費	2,171,940,758	18.7	2,616,595,911	20.9	444,655,153	120.5
経費	1,934,585,883	16.7	2,004,449,545	16.0	69,863,662	103.6
減価償却費	743,990,123	6.4	739,788,191	5.9	△ 4,201,932	99.4
資産減耗費	29,561,403	0.3	13,545,183	0.1	△ 16,016,220	45.8
研究研修費	36,688,791	0.3	35,503,376	0.3	△ 1,185,415	96.8
医業外費用	424,796,355	3.7	508,881,497	4.1	84,085,142	119.8
支払利息及び 企業債取扱諸費	81,869,177	0.7	75,058,432	0.6	△ 6,810,745	91.7
長期前払消費税 償却額	51,226,593	0.4	52,465,721	0.4	1,239,128	102.4
雑支出	291,700,585	2.5	381,357,344	3.0	89,656,759	130.7
特別損失	8,691,986	0.1	7,544,165	0.1	△ 1,147,821	86.8
過年度損益修正損	4,491,986	0.0	7,544,165	0.1	3,052,179	167.9
その他特別損失	4,200,000	0.0	0	0.0	△ 4,200,000	皆減
小計	11,600,004,038	100.0	12,540,944,755	100.0	940,940,717	108.1
当年度純利益	△ 589,582,204	—	△ 51,325,015	—	538,257,189	—
合計	11,010,421,834	—	12,489,619,740	—	1,479,197,906	113.4

(単位 円、%)

(単位 円、%)

科目	収益の部				対前年度増減 (B)-(A)	(B)/(A)
	30		1			
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比		
医業収益	10,097,410,304	91.7	11,088,757,447	88.8	991,347,143	109.8
入院収益	6,155,807,465	55.9	6,719,602,732	53.8	563,795,267	109.2
外来収益	3,281,855,575	29.8	3,788,843,827	30.3	506,988,252	115.4
その他医業収益	659,747,264	6.0	580,310,888	4.6	△ 79,436,376	88.0
医業外収益	912,194,957	8.3	998,422,442	8.0	86,227,485	109.5
受取利息及び配当金	2,791	0.0	3,285	0.0	494	117.7
他会計補助金	290,227,863	2.6	297,764,000	2.4	7,536,137	102.6
他会計負担金	187,770,730	1.7	167,515,000	1.3	△ 20,255,730	89.2
国県補助金	16,621,191	0.2	12,869,008	0.1	△ 3,752,183	77.4
寄附金	350,000	0.0	2,154,281	0.0	1,804,281	615.5
長期前受金戻入	25,312,179	0.2	25,081,886	0.2	△ 230,293	99.1
資本費繰入収益	270,032,133	2.5	347,438,000	2.8	77,405,867	128.7
その他医業外収益	121,878,070	1.1	145,596,982	1.2	23,718,912	119.5
特別利益	816,573	0.0	402,439,851	3.2	401,623,278	49284.0
過年度損益修正益	816,573	0.0	2,439,851	0.0	1,623,278	298.8
他会計補助金	0	0.0	400,000,000	3.2	400,000,000	皆増
合計	11,010,421,834	100.0	12,489,619,740	100.0	1,479,197,906	113.4

比較貸借対照表（病院事業会計）

科目	資産の部				負債・資本の部				対前年度未増減 (B)-(A)	(B)/(A)
	30		1		30		1			
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比		
固定資産	13,978,705,337	87.7	13,638,013,830	86.4	8,232,701,430	51.6	7,643,397,007	48.4	△ 589,304,423	92.8
有形固定資産	11,915,349,977	74.8	11,661,460,151	73.9	6,437,357,737	40.4	6,147,406,746	38.9	△ 289,950,991	95.5
土地	4,114,042,365	25.8	4,118,742,365	26.1	1,710,000,000	10.7	1,410,000,000	8.9	△ 300,000,000	82.5
建物	5,976,920,694	37.5	5,800,582,182	36.7	85,343,693	0.5	85,990,261	0.5	646,568	100.8
構築物	31,842,053	0.2	32,215,919	0.2	3,958,439,826	24.8	4,417,419,054	28.0	458,979,228	111.6
器械備品	1,755,557,918	11.0	1,633,582,312	10.3	1,400,000,000	8.8	1,500,000,000	9.5	100,000,000	107.1
車両	5,255,000	0.0	1,944,800	0.0	784,147,317	4.9	764,250,991	4.8	△ 19,896,326	97.5
リース資産	1,927,947	0.0	1,927,947	0.0	250,000,000	1.6	550,000,000	3.5	300,000,000	220.0
建設仮勘定	6,344,000	0.0	49,004,626	0.3	967,289,466	6.1	1,060,459,233	6.7	93,169,767	109.6
その他の有形固定資産	23,460,000	0.1	23,460,000	0.1	14,258,842	0.1	40,147,412	0.3	25,888,570	281.6
無形固定資産	3,191,500	0.0	2,623,500	0.0	65,737,563	0.4	39,008,819	0.2	△ 26,728,744	59.3
電話加入権	1,487,500	0.0	1,487,500	0.0	477,006,638	3.0	463,552,599	2.9	△ 13,454,039	97.2
ソフトウェア	1,704,000	0.0	1,136,000	0.0	403,899,978	2.5	390,359,552	2.5	△ 13,540,426	96.6
投資その他の資産	2,060,163,860	12.9	1,973,930,179	12.5	73,106,660	0.5	73,193,047	0.5	86,387	100.1
長期未収金	1,811,695,252	11.4	1,732,926,252	11.0	252,614,777	1.6	227,532,891	1.4	△ 25,081,886	90.1
敷金	10,000,000	0.1	10,000,000	0.1	957,534,286	6.0	957,534,286	6.1	0	100.0
長期前払消費税	238,468,608	1.5	231,003,927	1.5	△ 704,919,509	-	△ 730,001,395	-	△ 25,081,886	-
流動資産	1,960,741,289	12.3	2,148,980,700	13.6	3,495,690,593	21.9	3,498,645,578	22.2	2,954,985	100.1
現金預金	226,520,073	1.4	261,295,865	1.7	2,816,580,496	17.7	2,816,580,496	17.8	0	100.0
未収金	1,628,963,750	10.2	1,773,701,382	11.2	679,110,097	4.3	682,065,082	4.3	2,954,985	100.4
貯蔵品	100,615,454	0.6	111,245,718	0.7	420,935,585	2.6	475,215,585	3.0	54,280,000	112.9
前払金	4,642,012	0.0	2,737,735	0.0	258,174,512	1.6	206,849,497	1.3	△ 51,325,015	80.1
合計	15,939,446,626	100.0	15,786,994,530	100.0	15,939,446,626	100.0	15,786,994,530	100.0	△ 152,452,096	99.0

(単位：円、%)

企業債元利償還予定表（病院事業会計）

（単位 円）

償還年度	元 金	利 子	元利合計
令和2年度償還予定額	764,250,991	67,071,135	831,322,126
令和3年度 "	834,532,597	60,204,790	894,737,387
令和4年度 "	834,177,730	53,273,490	887,451,220
令和5年度 "	767,135,536	46,129,844	813,265,380
令和6年度 "	575,213,934	38,976,906	614,190,840
小 計 (A)	3,775,310,788	265,656,165	4,040,966,953
令和7～28年度償還予定額 (B)	3,136,346,949	169,333,913	3,305,680,862
償還予定額合計 (A+B+C)	6,911,657,737	434,990,078	7,346,647,815

改善通知を受けていない指摘事項（市立病院）

令和2年8月21日現在

No.	監査区分			年度	年度別 整理番号	指摘年月日	指摘事項の概要
	種別	対象					
1	定期監査	市立病院	事務局	16	1	平成16年8月20日	固定資産台帳の整備等について

財務分析比率比較表 (病院事業会計)

分析項目	算式	比率		全国平均	説明
		30	1		
構成比率	1 固定資産構成比率 (%)	—	—	30	(構成比率は、構成部分の全体に対する関係を表すものです。) 総資産に対する固定資産の占める割合であり、これが大であれば資本が固定化の傾向にあります。
	2 固定負債構成比率 (%)	—	—	75.1	資本総額とこれを構成する固定負債・自己資本の関係を示すもので、固定負債構成比率が小であり、自己資本構成比率が大であるほど経営の安全性は大きいといえます。
	3 自己資本構成比率 (%)	—	—	55.2	
財務比率	4 固定資産対長期資本比率 (%)	—	—	30.8	(財務比率は、貸借対照表における資産と負債又は資本との相互関係を表すものです。) 固定資産の調達が資本と固定負債の範囲内で行われるべきであるとの立場から、少なくとも100%以下であることが理想とされています。
	5 固定比率 (%)	—	—	87.3	固定資産が自己資本によってまかなわれるべきであることが理想とされています。さらに、100%以下であることが理想とされています。
	6 流動比率 (%)	—	—	243.5	1年以内に現金化できざる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、流動性を確保するためには流動資産が流動負債の2倍以上であることが要求されるので、理想比率は200%以上です。
	7 酸性試験比率 (当座比率) (%)	—	—	178.5	流動資産のうち、現金預金及び容易に現金化しうる未収金(当座資産)と流動負債を対比させたもので、100%以上が理想比率とされています。
	8 現金預金比率 (%)	—	—	174.7	流動負債に対する現金預金の割合を示し、これは20%以上が理想比率とされています。
	9 自己資本回転率 (回)	—	—	104.7	(回転率は、企業の活動性を示すもので、これらの比率は大きいほど資本が効率的に使われていることを表すものです。) 自己資本の動きを総資本から切り離して見たものです。
	10 固定資産回転率 (回)	—	—	1.9	(固定資産に対する投下資本の効率を測定するものです。) 医業収益と設備資産に投下された資本との関係で、設備利用の適否をみるためのものです。
回転率	11 減価償却率 (%)	—	—	0.8	減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、固定資産に投下された資本の回収状況をみるためのものです。
	12 流動資産回転率 (回)	—	—	7.4	現金預金、貯蔵品、未収金回転率等を包括するものであり、これらの回転率が高くなればそれに応じて高くなるものです。
	13 未収金回転率 (回)	—	—	2.3	企業の取引量である医業収益と未収金との関係で、未収金に固定する金額の適否を測定するものです。
収益率	14 総資本利益率 (%)	—	—	5.8	企業に投下された資本の総額とそれによってもたらされた利益とを比較したものです。
	15 総収支比率 (%)	—	—	0.6	総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総合的な関連を示すものです。
	16 経常収支比率 (%)	—	—	98.0	経常的な収益と費用を対比したものであり、経常収益と経常費用の相対的な関連を表すものです。
	17 医業収支比率 (%)	—	—	98.0	業務活動によりもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を対比して、営業活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されるものです。
	17 医業収支比率 (%)	—	—	91.7	

分析項目	算式	比率		全国平均	説明
		30	1		
18 利子負担率 (%)	$\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債等}} \times 100$	0.8	0.7	1.5	支払利息と企業債等との割合で、資金調達のための負債に対して支払う支払利息の利率の高低を示します。この利率の低い程低廉の資金を使用していることとなります。
19 企業債償還元金対減価償却費比率 (%)	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	77.6	109.7	133.2	企業債償還元金とその償還財源である減価償却費との割合で企業債償還能力を表すものです。この率が低いほど償還能力は高くなります。
20 企業債償還元金対料金収入比率 (%)	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$	5.9	7.5	8.8	料金収入に対する企業債償還元金の占める割合を表すものです。
21 企業債利息対料金収入比率 (%)	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$	0.9	0.7	1.5	料金収入に対する企業債利息の占める割合を表すものです。
22 企業債元利償還金対料金収入比率 (%)	$\frac{\text{企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	6.8	8.2	10.2	料金収入に対する企業債元利償還金の占める割合を表すものです。
23 職員給与費対料金収入比率 (%)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$	61.4	59.4	57.8	職員給与費の料金収入に占める割合を表すものです。この比率が高ければ高いほど固定経費が増える結果となり、財政の流動性が失われて経営が悪化することを意味するものです。
24 経常損失比率 (%)	$\frac{\text{経常損失}}{\text{医業収益}} \times 100$	5.8	4.0	3.3	医業収益に対して、いくらの経常損失があるかを示します。
25 累積欠損金比率 (%)	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$	—	—	57.6	医業収益に対して、いくらの累積欠損金（当年度未処理欠損金）があるかを示します。
26 不良債務比率 (%)	$\frac{\text{不良債務} + \text{翌年度繰越財源}}{\text{医業収益}} \times 100$	12.0	13.6	1.4	医業収益に対して、いくらの不良債務があるかを示します。

その他の

- ※
- (1) 総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延資産
 - (2) 総資本 = 負債資本合計
 - (3) 総収益 = 医業収益 + 医業外収益 + 特別利益
 - (4) 総費用 = 医業費用 + 医業外費用 + 特別損失
 - (5) 経常収益 = 医業収益 + 医業外収益
 - (6) 経常費用 = 医業費用 + 医業外費用
 - (7) 経常利益 (又は経常損失) = 経常収益 - 経常費用
 - (8) 自己資本 = 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益
 - (9) 長期資本 = 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 固定負債 + 繰延収益
 - (10) 減価償却資産 = 期末減価償却資産 + 当年度減価償却費
 - (11) 負債 = 建設改良の財源に充てるための企業債・長期借入金 + その他の企業債・長期借入金 + 一時借入金 + リース債務
 - (12) 不良債務 = 流動負債 - 流動資産 - 建設改良費等の財源に充てた企業債・長期借入金 - PFI法に基づく事業に係る建設事業費等のリース債務
 - (13) 平均 = $\frac{\text{流動負債} - \text{流動資産} - \text{建設改良費等の財源} + \text{期首} + \text{期末}}{2}$